

# 会 議 録

内 容：平成 26 年度軽井沢町グランドデザイン像作成に伴う会議（第 1 回/全 11 回）

場 所：軽井沢町役場第 3・4 会議室

日 時：平成 26 年 4 月 21 日（月）10 時～17 時

出席者：軽井沢町（町長、横島、依田、森、遠藤、春原）

中村、udc（護、小野寺、辻）、小野寺事務所（上條）、アトリエ T-plus（南）

## ①中村委員長より「論点メモ」説明があり、総論の議論を行った。結果下記。

### ◆ビジョンについて

- ・エリアデザインにおいてはテクニックに入る前に、風土自治の原理をどう説明するか、という点に立ち返ること。
- ・ビジョンは「計画」策定ではなく、「見識」を示すものとする。
- ・町民の教科書となるよう街並みを夢として描く。
- ・個別的事情、民有地・官有地の別に拘らずにビジョンを描く。
- ・現実論、100 年先の両方を表現すること。教科書であるが、夢も含まれるということ。
- ・ビジョン実現には「民の協力」が必須であることを盛り込む。住民自治の問題。
- ・別荘地は「保存的」扱われることをビジョンとして描く。（別荘地の扱い）
- ・「MICE」は 300 人程度だが、行政の役割をビジョンに描く。（コンベンション機能）

### ◆軽井沢モダンについて

- ・「和モダン」にかわり、「軽井沢モダン」を使用する。
- ・和モダンを引っ張る軽井沢モダンを打ち出す。発地の市庭をはじめ、地道に実例を積み重ねることが重要。軽井沢モダンは時代によって変わっていく、生成する風土。
- ・軽井沢モダンの地区ごとのスタイルを表現すること。

### ◆基本理念について

- ・「風土自治センター」の提案があった。
- ・風土文化アカデミー（21 世紀の公民館）の方向性で進める。
- ・「コモンズ」を使用する。軽井沢という名前を付けてアレンジする。

## ②エリアデザインについて小野寺氏より説明があり、議論を行った。結果下記。

### ◆アウトプットの表現方法

- ・グランドデザイン全体像の画家は「イマイカツミ」氏とする。
- ・全エリア共通としてエリア全体図（ポンチ絵）と例示図（イメージパース）3 枚程度とする。
- ・エリアデザインのアウトプットについて、模型写真も手法としてあげられるが、リアリティーが強すぎるという点もあるので、場所を選ぶ必要がある。

(スケッチ、透視図、逆透視図、洛中洛外面てき表現等を工夫する。)

⇒今後検討

- ・エリアデザインの全体図も「イマイカツミ」に依頼する件については、話題とはなったが結論は出なかった。

⇒今後決定

- ・補助冊子は中学生がみてもわかるようにすること。

#### ◆全体（グランドデザイン）

- ・地名、プロジェクトにわかりやすい名前をつけること（各サイクリングパスにも名前をつける）。
- ・LRT は、新軽井沢駅⇔旧軽銀座入口⇔旧中山道⇔中軽井沢⇔新軽井沢を通す。電線ではなく、地面から電気を取るイメージ。

#### ◆エリアデザイン

##### 【旧軽井沢】

1. 両軸の交差点周辺＋2. 別荘保存の決意表明図＋3. 旧軽銀座の街並み
- ・聖パウロから諏訪の森までを範囲とする。
  - ・ポンチ絵では、愛宕山もいれるとよい。
  - ・旧軽銀座よりも北東側の別荘からは、車で銀座通りを通る。車が通れる街路にする必要はある。
  - ・教会前広場、旧軽銀座、別荘の3点をパースにする。別荘については、現状を守るという決意を表明する。

##### 【新軽井沢】

1. 駅前＋LRT・本通りの街並み＋3. 矢ヶ崎公園
- ・駅から矢ヶ崎公園の水面がみえるようにすること。
  - ・管理棟の建替えの建物は会議場も兼ねる。水面に張り出すような建築とする。
  - ・人が楽しんで歩けるのは500m、新軽井沢駅から旧軽井沢までは1.5km。そうすると2ヶ所、仕掛けが必要。東雲交差点、脇田美術館あたりがポイントになる。
  - ・水路を西側に入れ、水の循環を促す。
  - ・駅前の様子、矢ヶ崎の水辺、本通りの街道(LRT+建物改修)の3点をパースにする。

##### 【中軽井沢】

- ・湯川について、東京組と地元組で見方が異なる。地元では街中の商店街自体をどうにかして欲しい、という声強い。
- ・風土文化アカデミーは、沓掛テラスの曲りでスタートすることを想定する。
- ・活性化された商店街を表現することについて合意はされたが、その方法が課題のため結論は持ち越された。

⇒今後の課題

※【04/23 中村先生】やり水型まちニワ群(クラスター)

- ・沓掛用水の活用、官で水路を整備し、民が自由に水を使えるように。
- ・水路の先に道祖神がある。
- ・場所は特定しなくともよいので、水が流れている様子が分かるパースを作成する。
- ・当水路を信濃鉄道の南側まで流して、湯川公園の中に引き込む。

※【04/23 中村先生】直売所のサテライト

- ・大日向地区でも高原野菜が収穫できる。発地の直売所は大日向から遠い。

※【04/23 中村先生】県道沿いの建物の修景イメージ

【南軽井沢/南地区】

1. 風越公園と直売所連携

- ・範囲が広がるので、農地・集落景観はランドデザインに書く
- ・サイクリングマップは全体図に描く。
- ・元気3庭(水の庭、風の庭)
- ・風越地区は官の再開発。
- ・現テニスコート場に緑地を配すことで、異質な文化のカクテルをつくる
- ・植物園は移転を前提とし、駐車場とする。テニスコートは一部をなくし、そこに今の駐車場を減らす形で、緑地、クラブハウスを配す。
- ・発地里山計画、植林100年計画(サクラ、モミジ、コブシ)。町主導でやるのではなく、住民主導で進めることが重要。
- ・直売所は収穫が秋なので、樹木はモミジがよい。
- ・植物園、100万本の植樹(桜、楓、辛夷・・・)の表現の扱いは持ち越し  
⇒今後の検討

※【04/23 中村先生】

- ・馬事苑構想、馬のトレッキングルート、も構想に含める
- ・クリエイターズコロニー

【西軽井沢/追分地区】

1. 街道の街並み+2. 分け去れと追分宿の連携

- ・「文学の視覚化」の強い要請があった。  
⇒今後の課題
- ・旧中山道に限定する。ただし、杉瓜、茂沢にはフットパス、サイクリングを通す
- ・油屋、本屋の動きと競合しないこと
- ・街道沿いの建物の修景と文学の雰囲気築くこと、が課題
- ・分け去れと街道の連携、私有地を買収することで実現

※【04/23 中村先生】今は樹木が少ない印象。並木とするのではなく、名木を適宜配置する。

米印(※)は0423に中村先生から頂戴したご意見

○スケジュール、進め方

- ・町より工程表（作業項目と日程）の指示があった。（但し、9月には議会説明を予定する。町民説明会は式典と合わせることを含め先送りとする）
- ・作業項目については作業班で検討するよう指示があった。  
⇒次回までの検討事項
- ・スケジュールの確実な実施のため、作業班は東京で中村委員長と、町の担当部局は町長・参与とそれぞれ調整し、これを前提として、作業班と町の担当部局は緊密に調整を行うこととした。

○次回の協議

- ・平成26年5月7日（水）とする。
- ・議題は
  - 1) グランドデザイン
    - ①コンセプトと内容
  - 2) エリアデザインの仕様
    - ①コンセプトと内容
    - ②各地区仕様（作画方法、全体図に描きこむ事物・施設、例示場所（再確認含む）、）
    - ③例示場所イメージ図
  - 3) 工程表（作業項目と日程）
  - 4) 会議開催予定日程

○使用資料

1. 軽井沢未来構想会議論点メモ（中村委員長）  
グランドデザインイメージへの第1次試案（2014年3月31日改訂）  
軽井沢未来構想会議（委員長中間報告）
2. エリアデザイン素案（旧軽井沢・新軽井沢、中軽井沢、南地区、）（小野寺事務所）
3. 平成26年度軽井沢町グランドデザイン像作成工程表  
軽井沢エリアデザインの基本理念  
景観イメージポジショニングマップ

以上